



西内野 コミュニティだより

36号

発行／西内野コミュニティ協議会 総務・広報部

あいさつ運動 8月24日(月)～8月28日(金)実施 ☆☆☆☆☆

あいさつ運動の可能性

青少年・文化部長 佐山久司

短い夏休み、まだ休みたい思いと友だちと一緒に学校に行きたい気持ちが交差する中、「あいさつ運動」で地域の人たちが通学路の要所に立ち、「おはようございます」とあいさつをしてくる。仕方なく返答しているといつの間にか「気だるさ」が消えていた…。

あいさつは漢字で「挨拶」と書く。「挨」は「押す」の意味をもち、「拶」は「近づく」といった意味がある。総じて「押して進む」「押して近づく」という意味の熟語とのこと。

子どもたちには少々迷惑かもしれないが、「押して近づく」の精神で、今後も「あいさつ運動」を継続して行きたいと思う。結果として、豊かな人間性の形成と地域のコミュニケーションの活性化、さらには住みよい環境を築ければ幸いだ。



▶ あいさつ運動 感想

- 暑い中でも元気に登校する児童の姿が見られて良かったです。しっかり目を見てあいさつできる児童が多いように感じました。
- 夏休み明けの登校だったからなのか眠そうにしている子が多かった。積極的にあいさつしてくれる子もいて、こちらも元気をもらえました。
- 小学生だけでなく中高生もあいさつしてくれました。みんなが元気よくあいさつしてくれ、暑くて大変でしたが、とても楽しくあいさつ運動ができました。

自分からあいさつできる西っ子を目指して

西内野小学校 校長 井浦順子

「おはようございます こんにちは あいさつは 人と人をつなぐかけはし」
これは西内野小学校の玄関前にある、地域の方が作成して下さった木製の素敵なプランターに書かれている言葉です。今年も「にしうちのあいさつ運動」が行われ、残暑厳しい中、保護者の皆様や地域の方々に見守られ、声をかけていただき、すてきなあいさつの架け橋が繋がりました。これからは、地域や保護者の皆様に声をかけていただくだけでなく、「自分からあいさつできる西っ子」を目指して、あいさつの架け橋をつなげていきたいと思ひます。



あの人
この人



広通江団地自治会
長谷川平蔵

さればとて 墓に布団は着せられず

日本に初めてのコンピューターが輸入された1955年の翌年、西蒲原郡の吉田町に私は生まれました。父親の転勤に伴い、高校を卒業するまで11回引っ越し、そして大学、就職に伴い9回の引っ越しを重ね、21回目の引っ越しで両親の下（五十嵐中島）に戻ってきた。

京都で学生生活を送り、東京で就職し、最初の赴任先はイランであった。当時イランは隣国イラクと交戦状態であり、頻繁にミサイルが飛んできた。何度か「もはやこれまで」と死を覚悟したが、幸運にも生き永らえ帰国することができた。このことを両親は何も知らない。

帰国して配属されたのはコンピューター部門で、当時開業が迫っていた東京ディズニー

ランドを担当することになり、約8カ月、帰宅することも休日も許されない、ほとんど神経衰弱の日々を送った。その後、福岡、広島、大阪、名古屋、仙台、札幌、いわき等々、転勤や長期赴任を繰り返し、……

20数年ほど前に高齢の両親が心細そうなことを訴えたため、退職を決意し、…墓に布団は着せられず…、東京から戻り、以降この地で生きております。

父は12年前、母は3年前に他界し…、二人とも入院することも苦しむこともなかったが、私の不意を突くように突然死を迎えた。この世での私の役割はすべて終わったわけだが、両親の死が穏やかなものであったことが今も私を慰めてくれる。

公園表彰

公園愛護協会 個人の部 会長表彰
中野 茂夫さん 他1名(新中浜町内会)

新中浜町内会には、中浜公園と小丸山公園があります。

13年以上にわたり、お二人が種まきから水やりまで公園の花壇の維持管理に尽力してくださいました。お陰さまで、美しい花を楽しむ事ができます。

皆さんの癒しの場づくりに多大な貢献を頂いたお二人に心から感謝いたします。

新中浜町内会会長 大河原 弘



▲ 中浜公園



▲ 小丸山公園

夜間防犯パトロール

8月30日(日)~10月7日(水)の
毎週日曜日と水曜日に実施しています。



お知らせ

西内野コミュニティ協議会より

- 自主防災訓練 →11月3日(火・祝)実施
- 西内野もちつき大会 →中止
- 高齢者ふれあい日帰り研修 →中止



西コミュニティセンターより

- 文化祭 →中止
- 11月から令和3年3月までの5ヶ月間、大ホール補修工事のため使用できません。



編集後記

コロナ、コロナいつになったら終息するのだろう。このままだと、今年一杯、自治・町内会をはじめ地域の行事はほとんど中止、私も孫に逢いたくとも心を鬼にして来るなどしか言えない辛さ。そんな中、先日あいさつ運動が行われ、小学生の大きな声と礼儀正しさに感動しました。友だち、自由や遊びを奪われ、さぞ意気消沈しているかと思っていましたが、頭の下げ方や声の大きさ等、すべて立派でした。しかも指導して下さるボランティアの皆様の、大きな声と礼儀作法、コロナで暗い世間に一筋の光を見出した思いです。

大河原 弘

